

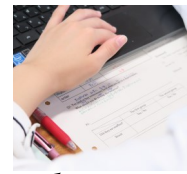
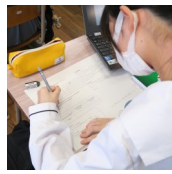
「問い」を中心に据えた「やり取り」を重視した英語の授業

英語科 谷尾 文佳 (たにお ふみか) 先生

初任者研修の一環として実施された、谷尾文佳先生とリアム・ブレナン先生による研究授業。英語科のみならず、校内の多くの職員と、また他校からもスーパーティーチャーを招いて約15名の参観の中での授業となった。幼いころから英会話教室に通い、英語を人と人をつなぐツールとして捉えてきた谷尾先生。その「楽しさ」を生徒にも体感してほしいという思いで、日ごろから、英語での「やり取り」を中心にした授業を行っている。その一コマ取材した。



<p>【日時】 令和6年10月29日 (火) 第3校時</p> <p>【クラス】 普通科1年3組</p> <p>【本時の目標】 本文のQuestionの答えを予測する</p> <p>【教材名】 Power On English Communication I Lesson 6 (東京書籍)</p>	<p>Which event do you like the best? という問を与え、両教員の意見を述べた後ペアワーク。</p>	<p>問いを与えた後、メモを取らせながら、考える活動。</p>	<p>席替えをしてペアの相手を変えながらのペアワーク。</p>	<p>ワークシートを使って実験の結果や結論をまとめる。</p>	<p>音読活動もペアで行う。</p>
---	--	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	--------------------



- 1.挨拶 2.コミュニケーション活動 3.本時の目標の提示 4.語彙インプット 5.問の提示及び考える活動 8.発表活動 9.読む活動 10.文法解説 11.音読活動 12.フィードバック



挨拶もペアで「How are you?」と聞きあう「やり取り」でスタート。



本時の目標及び授業の流れをスクリーンとポスターで提示・説明。



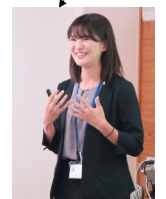
机間巡視しながら、生徒に助言。



繰り返す度に、生徒の声が大きくなる。



挙手し発表する生徒。



フィードバック及び次の授業を予告し授業を終える。

導入はコミュニケーション活動から

授業は挨拶も含め、英語でのコミュニケーション活動からのスタート。Which event do you like the best?というトピックで、両先生が理由とともに話し、生徒の背景知識を高めながら、ペアワークに移行。生徒からも正月やクリスマスなどを挙げながら笑顔で話し始めた。谷尾先生もリアム先生も机間巡視しながら、生徒に声をかける。

「理数探究」につながる題材

コミュニケーション活動の後は目標の提示である。今回扱った本文は「スーパーに買い物に行った時、買いすぎないようにするためにはどうすべきか?」という「問い」で始まる。90ワードという短い本文ではあるものの、「問い」の後には、答えとして「実験」「結果」「考察」「結論」を示す文が続く。つまり、この文は論文の構成要素を凝縮したものであり、生徒の科学的思考力を高める教材でもある。谷尾先生はこの「問い」に着目し、その答えを考えさせる活動を本時の目標とした。谷尾教諭は「**正解のない問を大事にして生徒のアイデアを引き出すことを重視したい。**」という。課題研究的に言うと、問いの答えを考えるこの活動は、どのような「仮説」があるか考え

させることに繋がっている。折しも1年生の「理数探究」の授業では、問の立て方を学んでいるところで、次は「仮説」の設定である。今回の授業ではぐくむ力は、これとリンクしている。

TPS(Think-Pair-Share)の活動

語彙学習の後には、最初の問い「スーパーに買い物に行った時、買いすぎないようにするためにはどうすべきか?」という問いに答えるために、考える視点をスクリーンに表示した後、メモをとりながら考える(Think)10分間の活動に入った。アイデアが浮かばない生徒の支援策として、早くアイデアが出た生徒には「Padlet」という掲示板プラットフォームに書き込ませスクリーンに表示し、参考にさせる。その後は自分のメモを見ながらのペアワークで、自分の意見を英語で言い合う活動(Pair)に移行。この活動は2回パートナーを変えて計3回行われた。回数を重ねる度に、生徒たちが自分のアイデアに自信を持って英語で発言できるようになっていることが印象的だった。それに続くクラス発表(Share)活動では挙手をして発表する生徒もいた。

リーディング活動

前述のTPSの活動で生徒たちは様々な「仮説」を出したことになる。リーディング活動では、教科書ではどのような「仮説」から「実験」がなされ、その「結果」からどのような「結論」が導かれたか。これを読み取ることになる。それを前もってワークシートに模式的に示し、生徒たちにはリーディング活動を行わせながらワークシートにまとめさせた。その後文法のポイントを説明、音読活動を経て全体的なフィードバックで授業を終えた。50分の中で生徒一人一人の英語でのやり取りが多く設定された授業だったが、生徒たちの笑顔を見ると、やり取りから谷尾先生の目指す英語の「楽しさ」を感じているのは確かだった。

谷尾教諭が生徒に伝えていること・思い

「これから生徒たちは海外の人と接する機会が明らかに多くなります。その時に、流暢でなくとも、臆することなく英語を話すことができるようになってほしい。また、英語を使って、どんなところででも(海外でも)、自分の得意なことを発揮できるようになってほしい。高校3年間は忙しく一瞬で過ぎ去ります。家族や友人など周りの人に感謝しながら、一時間一時間の授業や毎日の部活動など全力で頑張りたいと思っています。」